

SPAC は次のステージへ——

2025 年、SPAC は財団設立 30 周年の節目を迎えます。

公益財団法人静岡県舞台芸術センターは、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業団として 1995 年に設立され、2025 年に財団設立 30 周年を迎えます。演劇のプロフェッショナルとして、また日本の公共劇場・公共劇団のパイオニアとして、海外への発信や地域での人材育成活動など、演劇を通して多くの知見と人脈を得て磨き上げてきた「人」と「技術」を、今後はさらに企業やコミュニティと連携しながら、福祉・観光・人材育成など地域の活性化や課題解決に活用していきます。演劇のエッセンスが日常生活に染み出し、人が集団で生み出す演劇の力を生活の中で実感することで、人間への信頼の輪を広げていきます。豊かな社会の実現を目指し、SPAC は次なる歩みをスタートします。



右から『アンティゴネ』アヴィニョン演劇祭(2017年) / 人材育成事業「すばっくおやこ小学校」(2024年) / SPAC 演劇アカデミー・日仏学生舞台芸術交流プログラム(2024年)

【発表！】演劇祭 新名称：SHIZUOKA せかい演劇祭

SHIZUOKA で様々な「せかい」に遭遇する

財団設立 30 周年の取り組みのスタートとして、毎年ゴールデンウィークに SPAC が開催する演劇祭もリニューアル！「ふじのくに⇄せかい演劇祭」は、2025 年から「SHIZUOKA せかい演劇祭」に改称します。静岡が世界とダイレクトにつながる「⇄」から、SHIZUOKA にせかいがある「=」へ。文化往来の地である静岡で、様々な「せかい」に遭遇し、演劇が日常に活力をもたらす“ハレの場”を作り出します。劇場で国内外の優れた舞台芸術作品に出会えるのはもちろんのこと、市街地の日常の風景の中でもイベントが開催される演劇祭では、演劇/役者の魅力が SHIZUOKA の街にあふれています。だれもが演劇のエッセンスにふれることができる祝祭の場は、30 周年を迎える SPAC が取り組む「演劇の力で日常を生き生きと過ごす」ことの体現であり、静岡県が目指す「演劇の都しずおか」の縮図でもあります。



**WORLD THEATRE
FESTIVAL
SHIZUOKA**
SHIZUOKA せかい演劇祭

世界を行き交う舞台芸術の知と肉体がこの一時、富士の麓に集います。これまでの名称の「⇄」行き交う矢印が、抽象的に富士山の形状と組み合わせられ、往来と賑わいを表します。濃いブルーは、新たな芸術とその時その場所で出会う、一期一会の体験の深さもイメージしています。

ゴールデンウィークは「PLAY!ウィーク」に！

「SHIZUOKA せかい演劇祭」、そして「ふじのくに野外芸術フェスタ」、ストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡 2025」の開催期間であるゴールデンウィークを「PLAY!ウィーク」と称し、「PLAY!」(遊ぶ/楽しむ/学ぶ/演じる)を合言葉に、これまで以上に新緑の静岡を盛り上げます。なかでも、メイン会場となる静岡市街地の駿府城公園は、「PLAY!」があふれる「PLAY! PLAY! PLAY! ガーデン」として賑わいを増します。園内では海外の演劇ファンも注目する宮城聡×SPAC の新作野外劇の上演と、10 周年を迎えるストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡 2025」のパフォーマンスが各所に展開することに加え、静岡の豊かな「食」体験や、県内でユニークかつ先端的な事業を生み出す企業の協賛によるアクティビティも登場！そこへさらに、俳優によるひと味違った“おもてなし”が加わり、幅広い世代が集い楽しむ演劇のテーマパークとなります。



『天守物語』©HIRAO Masashi



©MAKITA Natsumi (F4,5)



SHIZUOKA せかい演劇祭 演目一部発表！[速報]

いま、最も注目すべき演出家たちの話題作が初来日！

会期：2025年4月26日[土]—5月6日[火・振休]

会場：静岡芸術劇場、舞台芸術公園、駿府城公園ほか

*演劇祭の全ラインナップ、並びに SPAC 年間ラインナップを2月中旬に発表予定です。

また詳しい内容は、2月27日(木)に静岡芸術劇場、3月4日(火)に東京でのプレス発表会にてご紹介します。

詳細は後日ご案内させていただきます。



『〈不可能〉の限りで』©Magali Dougados



『ラクリマ、涙』©Jean-Louis Fernandez

演劇 | 日本初演

『〈不可能〉の限りで』 As Far As Impossible

▶作・演出：ティアゴ・ロドリゲス Text and direction: Tiago Rodrigues

▶製作：コメディ・ドゥ・ジュネーヴ (スイス) Production: Comédie de Genève

アヴィニョン演劇祭の現ディレクターであり、医師の母とジャーナリストの父を持つ作家・演出家のティアゴ・ロドリゲスが、赤十字国際委員会や国境なき医師団などのメンバーとの対話をもとに創作した作品。“不可能”な地域で人道支援に従事する者たちが語る言葉——終わりの見えない紛争に苦しむ世界の最前線がここに。



©Filipe Ferreira

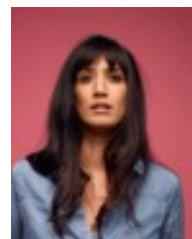
演劇 | 日本初演

『ラクリマ、涙 ~オートクチュールの^{きら}燦めき~』 LACRIMA

▶作・演出：カロリーヌ・ギエラ・グエン Text and direction: Caroline Guiela Nguyen

▶製作：ストラスブール国立劇場 (フランス) Production: National theatre of Strasbourg

英国王妃のウェディングドレス製作にまつわる群像劇。2023年にストラスブール国立劇場の芸術監督に就任したカロリーヌ・ギエラ・グエンが、オートクチュール業界を支える人々の光と影を浮かび上がらせる。個人の記憶と集団の歴史を織り交ぜ、静かな暴力にさらされる名もなき職人たちの姿を描く、必見の舞台。



©Manuel Braun

同時開催！ ふじのくに野外芸術フェスタ

演劇 | SPAC 新作

『ラーマヤナ物語』 Ramayana

▶構成・演出：宮城聡

▶製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター

世界が注目する宮城聡×SPAC の新作野外劇は、『マハーバーラタ』と双璧をなす古代インドの叙事詩『ラーマヤナ』。英雄ラーマはさらわれた妻シーターを奪還すべく、超越した力を持つ猿の軍団の加勢をもって魔王ラーヴァナに挑む。夕刻の広場で始まる壮大な冒険譚。神々の化身たちが遙かな時空に誘う！



©Takashi Kato

開催 10 周年！

ストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡 2025」

Street Theatre Festival STRANGE SEED SHIZUOKA

5月3日[土・祝]～5月5日[月・祝]

演劇・ダンスが公園や商店街に現れる！？10年目のストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡 2025」は、日常の風景を一変させるパフォーマンスだけでなく、野外で大人も子どもも楽しめるワークショップが盛り沢山。静岡のまちが「なんだ？なんだ？なんだ？」で埋め尽くされる！

会場：駿府城公園、青葉シンボルロードなど静岡市内

*観覧無料／一部予約制・有料の場合あり

<https://strangeseed.info>



SPAC『マダム・ボルジア』©Y.Inokuma



ストレンジシード静岡 ©Natsumi Makita(F4,5)

チケット発売日 一般前売り開始 3月中旬を予定

■ SHIZUOKAせかい演劇祭 (旧：ふじのくに⇔せかい演劇祭)

公益財団法人静岡県舞台芸術センター (SPAC) では、1999年に開催された世界の舞台芸術の祭典「第2回シアター・オリンピックス」の成功を受けて、2000年より「Shizuoka 春の芸術祭」を毎年行い、各国から優れた舞台芸術作品を招聘・紹介してきました。SPACが活動15年目を迎えた2011年からは、名称を「ふじのくに⇔せかい演劇祭」とし、新たなスタートを切りました。「ふじのくに⇔せかい演劇祭」という名称には、「ふじのくに(静岡県)と世界は演劇を通して、ダイレクトに繋がっている」というメッセージが込められています。静岡県の文化政策である「ふじのくに芸術回廊」と連携しながら、世界最先端の演劇はもちろん、ダンス、映像、音楽、優れた古典芸能などを招聘し、静岡で世界中のアーティストが出会い、交流する—そんなダイナミックな「ふじのくにと世界の交流(ふじのくに⇔せかい)」を理念としています。2025年、名称を「SHIZUOKAせかい演劇祭」に改め、「しずおか」と「せかい」が一体(=イコール)となり、隣り合う人々が互いの「せかい」を共有できるハレの場を目指して進化します。

■ SPAC (Shizuoka Performing Arts Center)

公益財団法人静岡県舞台芸術センター (Shizuoka Performing Arts Center : SPAC) は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997 年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007 年より宮城聡が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。

○資料：SPAC 活動年表

年	内容
平成 7(1995)年	財団法人静岡県舞台芸術センターが設立され、芸術総監督に鈴木忠志が就任
平成 9(1997)年	静岡県舞台芸術公園竣工、活動開始
平成 10(1998)年	静岡芸術劇場竣工
平成 11(1999)年	舞台芸術の祭典「第 2 回シアター・オリムピックス」開催
平成 12(2000)年	国際演劇祭「Shizuoka 春の芸術祭 2000」開催
平成 16(2004)年	「中高生鑑賞事業公演」がスタート
平成 19(2007)年	2 代目の芸術総監督として宮城聡が就任
平成 23(2011)年	「Shizuoka 春の芸術祭」の名称を改め、「ふじのくにせかい演劇祭」を開催
平成 25(2013)年	公益財団法人静岡県舞台芸術センターに移行 全国知事会第 6 回先進政策創造会議により、静岡県の SPAC への取り組みが「先進政策大賞」に選出
平成 26(2014)年	仏アヴィニョン演劇祭の公式プログラムとして『マハーバーラタ』上演
平成 29(2017)年	仏アヴィニョン演劇祭オープニング作品として『アンティゴネ』をメイン会場・法王庁中庭にて上演 (法王庁中庭でのオープニング作品にアジア圏の劇団が選ばれるのは 71 年間の同演劇祭の歴史上初)
平成 30(2018)年	18 度グッドデザイン賞を受賞
平成 31(2019)年	「Japan2019」公式プログラムとしてニューヨーク パークアベニュー・アーモリーにて 『アンティゴネ』を上演、1 万人を動員 宮城聡がフランス・芸術文化勲章シュヴァリエを受勲
令和 3(2021)年	「東京 2020 NIPPON フェスティバル共催プログラム」として『アンティゴネ』静岡公演 (ふじのくに野外芸術フェスタ)
令和 3(2021)年	[世界にはばたけ、Shizuoka youth! 「SPAC 演劇アカデミー」] がスタート
令和 5(2023)年	「東アジア文化都市 2023 静岡県」のアンバサダーとして年間の活動を展開 宮城聡が 23 年度第 50 回国際交流基金賞を受賞
令和 7(2025)年	財団設立 30 周年 「ふじのくにせかい演劇祭」の名称を改め、「SHIZUOKA せかい演劇祭」を開催
令和 9(2027)年	活動 30 周年

お問い合わせ SPAC チケットセンター **054-202-3399** (10:00~18:00/休業日を除く)

〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡 2 丁目 3-1 TEL : 054-203-5730/FAX : 054-203-5732

E-mail : mail@spac.or.jp

◆「SHIZUOKA せかい演劇祭 2025」の最新情報は・・・

プレスリリース、[SPAC 公式サイト](#)、[演劇祭 2025 特設サイト](#)にて、随時お知らせいたします。

SPAC 公式サイト <https://spac.or.jp>

演劇祭特設サイト (ティザーページ | 2 月中旬 本オープン) <https://festival-shizuoka.jp>

広報担当：坂本彩子 計見葵 西村藍 佐藤美咲 koho@spac.or.jp

主催：SPAC-静岡県舞台芸術センター ほか